

美と感動に出会う美術館

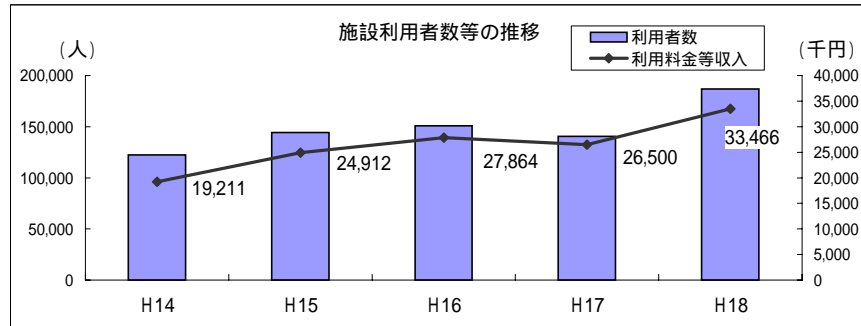
| | | | |
|--------------------|--|--------|---|
| 所在地 | 福井市文京3丁目16-1 | | |
| 設置年月日 | 昭和52年10月1日 | | |
| 施設の種類 | 美術館 | 施設管理主体 | 県 |
| 設置の目的 | 美術に関する県民の知識および教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与する。 | | |
| 概要 (構造、面積、主な機能) | 鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延6,627㎡ 駐車場127台、常設展示室、貸展示室、研修室、会議室、講堂 | | |
| 職員数 | 正職員8人、非常勤嘱託2人、事務補助1人、アルバイト4人 計15人 | | |

利用状況等

| | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 利用者数(人) | 122,470 | 144,163 | 150,817 | 140,418 | 186,928 |
| 収入(千円) | 19,211 | 24,912 | 27,864 | 26,500 | 33,466 |

利用者負担(利用料金)等

| | | |
|------------|------|---------|
| 観覧料 使用料 | 常設展 | 1000円 |
| | 企画展 | 美術館HP参照 |
| | 展示室等 | 美術館HP参照 |



| | |
|-------------|---|
| 利用状況 の推移 | 平成15年度は日展の巡回展が開催され、25千人の入場者があったため前年度比17.7%増となりました。 |
| | 平成16年度は企画展、貸館がやや減少したもののテーマ展の入場者が約3倍増となり、前年度比4.6%増となりました。 |
| | 平成17年度は企画展、貸館はほぼ横ばいで推移したものの、テーマ展の入場者が半減し前年度比6.9%減となりました。 |
| | 平成18年度は企画展で「水木しげる」共催展で「黒澤明」などの開催により一般入場者が大幅に増加し、前年度比33%増となりました。 |

施設の特徴

展示会の開催

- ・収蔵品を中心にテーマを決め、年間を通して常設展示室でテーマ展を開催しています。
- ・美術館独自の調査・研究による企画展(特別展覧会)を年に4回程度開催しています。
- ・県内各地域で美術鑑賞の機会を提供する移動美術館を年に3回開催しています。
- ・他の機関、事業者と共同で開催する共催展を開催しています。
- ・館蔵品を県内各学校や公共施設等で展示、解説するふれあいミュージアム事業を開催しています。

教育普及活動

- ・作品制作の初歩的な基礎を学ぶ日本画、洋画、彫刻の各基礎講座を開催しています。
- ・作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者を対象とした日本画、洋画、彫刻の各専門講座を開催しています。
- ・各企画展で講演会やワークショップ、ギャラリートークなどを開催しています。

施設・設備の提供

- ・創作グループ等の創作、研究活動の場として研修室を提供しています。
- ・創作グループ等の発表の場として展示室を提供しています。

収集活動

- ・福井の風土と歴史から生まれた美術資料および福井にゆかりのあるすぐれた美術資料の収集と保存を行っています。
- ・国の内外、時代を問わず、すぐれた美術資料の収集と保存を行っています。

調査・研究

- ・美術資料に関する学術的な調査・研究や保存、展示に関する技術的な研究を行っています。
- ・美術資料に関する解説書、図録、研究報告書などを刊行しています。

県立美術館ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>

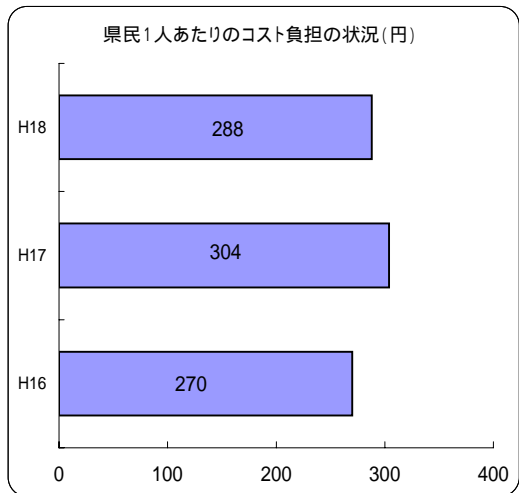
平成18年度の特徴について

| | |
|------|--|
| 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品によるテーマ展(常設展)を年間8回開催し、35,959人が来館しました。 ・企画展(特別展覧会)を年間4回開催し、38,959人が来館しました。 <ul style="list-style-type: none"> 「水木しげるワールド展」(13,060千円) 7/28～8/27 10,663人(344人/日) 「岡倉天心茶の本出版百周年記念特別展示」(2,881千円) 9/5～9/30 2,183人(83人/日) 「京の美意識展」(7,066千円) 10/6～11/5 8,699人(280人/日) 「造形集団 海洋堂の軌跡展」(13,986千円) 3/2～3/28 17,414人(644人/日) ・すぐれた美術作品を鑑賞する機会が少ない嶺南地域で、移動美術館を年間3回開催しました。(小浜展 2回 8/4～8/15、3/16～3/27 敦賀展 2回 9/9～9/22) ・ふれあいミュージアムを県内各学校で計4回開催しました。 ・美術館の展示室を利用した、美術愛好家や各種団体が主催する展覧会が年間90回開催され、102,007人が来館しました。 ・日本画、洋画、彫刻の3部門で、実技講座の基礎講座各10回、専門講座各25回開催し、73人が受講しました。 |
|------|--|

福井県立美術館(2/2)

行政コスト計算書(平成18年度) (単位 千円)

| | | 総額 | 構成比 | 前年比 |
|----------|-----------|---------|--------|--------|
| 人にかかるコスト | 人件費 | 90,208 | 38.3% | 102.6% |
| | 退職給与引当金繰入 | 520 | 0.2% | 6.4% |
| | 計 | 90,728 | 38.5% | 94.5% |
| 物にかかるコスト | 物件費 | 88,788 | 37.7% | 86.3% |
| | 維持補修費 | 14,343 | 6.1% | 187.1% |
| | 減価償却費 | 38,109 | 16.2% | 100.0% |
| | 計 | 141,240 | 60.0% | 95.0% |
| その他 | 公債費(利子) | 0 | 0.0% | 0.0% |
| | その他 | 3,409 | 1.4% | 76.0% |
| | 計 | 3,409 | 1.4% | 76.0% |
| 合計 | | 235,377 | 100.0% | 94.4% |
| 収入 | 利用料等収入 | 28,222 | 12.0% | 120.5% |
| | その他収入 | 6,427 | 2.7% | 150.2% |
| | 一般財源 | 200,728 | 85.3% | 90.5% |

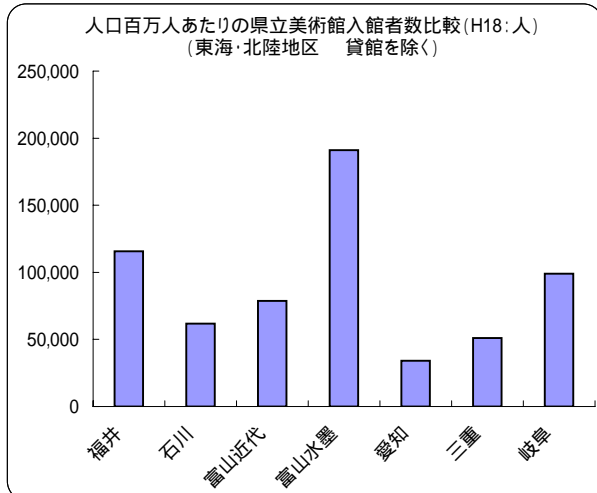


バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位 千円)

| 借方 | | | 貸方 | | |
|--------|-----------|--------|-----------|-----------|--------|
| 資産 | | 前年比 | 負債 | | 前年比 |
| 有形固定資産 | 5,148,067 | 99.9% | 固定負債 | 63,640 | 100.8% |
| うち土地 | 562,080 | 100.0% | うち退職手当引当金 | 63,640 | 100.8% |
| うち建物 | 929,907 | 96.3% | | | |
| うち美術品 | 3,576,780 | 100.9% | | | |
| 投資等 | 0 | - | 流動負債 | 0 | - |
| 流動資産 | 0 | - | 正味資産 | 5,084,427 | 99.8% |
| 計 | 5,148,067 | 99.9% | 計 | 5,148,067 | 99.9% |

主な指標 (単位: %、円/人)

| | H18 | H17 | 前年比 |
|----------------|-------|-------|--------|
| 県民1人あたり有形固定資産額 | 6,290 | 6,279 | 100.2% |
| 県民1人あたり将来負担額 | 78 | 77 | 101.3% |
| 世代間負担率 | 98.8 | 98.8 | 100.0% |



バランスシート、行政コスト計算書の特色

行政コスト計算書の分析
 ・物件費は、全科目で節約に努めた結果、前年度比86.3%と大幅な減額となりました。
 ・維持補修費は、施設の設置が昭和52年と古く、屋上防水工事(6,300千円)、空調設備修繕(2,646千円)等の修繕が増加したため大幅な増額となりました。
 ・経費の節減が図られたこと、利用者の増加に伴い利用料金等収入が約2割伸びたことにより、一般財源は前年比9.5%の削減になりました。これにより県民1人あたりのコストは前年比5.6%の削減になりました。
 ・県民1人あたりのコスト負担の状況を近県美術館と比較すると
 福井県立美術館 287円
 石川県立美術館 376円
 富山県立近代および水墨美術館 303円
 となっており、一番低くなっています。

バランスシートの分析
 ・有形固定資産のうち、開館以来収集した911点の美術品が全体の7割を占めています。また、このうち約3割が岡倉天心ゆかりの作品となっています。

施設の目的上、管理運営上、主要な事業

管理部門：施設の維持管理、美術資料の保管と管理
 【H19予算額：約72百万円】

事業部門：
 調査研究事業 ... 美術資料の調査研究と購入
 【H19予算額：約32百万円】
 企画展開催事業 ... 企画展(4回程度)、移動美術館の開催(3回)
 【H19予算額：約39百万円】
 教育普及事業 ... 講座、ワークショップ等の開催
 【H19予算額約4百万円】

今後の課題

総入館者は企画展の内容により増減が大きいため、県民ニーズに沿った企画展内容が必要となっています。

また、収蔵品を中心に、常設展示の内容を更新するなど、常連の入館者を確保する必要があります。

今後の事業方針 取り組み内容

全国的に著名になっている日本美術院の画家作品の収集や広く美術品の寄贈を求めるなど収蔵品の充実を図り、県民の多様なニーズに応えた展示に努めます。

新規入館者の開拓やより親しまれる美術館を目指し、様々な分野の企画展を開催します。

子供が美術に親しむ機会を増やすため、ふれあいミュージアムの開催や夏休み期間のこども向け展覧会を開催します。